

No.115 会社訪問

代表取締役社長 原 章 氏



トリー・ハン株式会社

会社プロフィール

代表者：代表取締役社長 原 章

所在地：本社 / 〒110-0015 東京都台東区東上野3-21-6 TEL :03-3833-0614

大阪営業所 / 〒531-0071 大阪市北区中津1-12-11-902 TEL :06-6459-7366

設立：昭和58年（1983年）5月

資本金：30,000,000円

事業内容：電子式 乾燥保管庫（電子デシケーター）『ドライ・キャビ』

電子式 加湿庫『ウエット・キャビ』

簡易・特注型グローブボックス の製造・販売

URL：http://www.dry-cabi.co.jp

聞き手：南 明則（副広報委員長） 岡田康弘（事務局） 取材・撮影・編集：クリエイティブ・レイ(株)

世界に先駆け革新的な除湿装置『ドライ・キャビ』を開発
防湿庫業界におけるリーディングカンパニー

— 御社の主な事業内容や主力商品についてお聞かせいただけますか。

弊社はカメラのレンズをはじめ、半導体、電子部品、精密部品などの保管に欠かすことのできない防湿庫の製造・販売を行っています。中でも世界初の全自動電子防湿保管キャビネットとして1983年に登場した「ド

ライ・キャビ」は、防湿庫のトップブランドとして写真・カメラ業界をはじめ、電子部品業界、精密部品・機器測定器の防湿保管、理化学・研究用の顕微鏡・レンズ、分銅、天秤の保管、博物館・美術館の文化財保管から埋蔵出土品の保管、弦楽器・管楽器の保管など、多業界にわたり多くのお客さまに喜ばれ、長年ご愛用



湿度を 35 ~ 50%RH で管理
カメラやレンズ等の保管用に。
容量：33L ~ 317L（全 16 機種）

ドライ・キャビ



ドライ・キャビ

中湿度：25 ~ 50%RH
低湿度：10 ~ 20%RH
超低湿度：1 ~ 3%RH

用途：顕微鏡、レンズ、分銅、天秤等の保管
各種実験用
半導体・電子部品の保管

いただき安心と安全をお届けしてまいりました。

防湿庫『ドライ・キャビ』(DRY-CABI)に搭載されている除湿器(ドライユニット)には特殊乾燥剤を開発採用し、半永久的に効果が持続するよう設計、この当社独自の高性能ドライユニットの働きによって全自動で庫内の湿度が一定に保たれます。

標準品の防湿庫内部は常温で冷やさず、温めないで湿度をコントロールできてたいへん重宝されています。最近ニーズも多様化し、庫内の湿度だけでなく冷却加熱をしながら、他社では不可能な超低湿度をコントロールできる当社独自の機能を搭載しました。

湿度管理は単に湿度を下げるだけではなく、カビが発生しない範囲内で湿度を上げることも求められます。そのようなご要望にお応えする製品が「ウエット・キャビ」です。単に加湿器で湿度を上げるのではなく、水を使わずに空気中の水分のみで加湿ができる加湿機能(50～75%RH ±3～5%RH)が搭載されています。この製品は貴重な文化財を保管する美術館、古文書や出土品を保管する博物館などで多く用いられています。その他にもギターやバイオリンなどの弦楽器や、トランペットなどの管楽器を乾燥と多湿から守りながら保管します。また、年間を通して湿度70%を求められる葉巻(シガー)保管などにも一役買っています。

近年、各分野で湿度管理の必要性が非常に重要視される中で、徐々に防湿庫の需要が広まりつつあります。

おもな防湿庫の納入先としては、写真・カメラ業界が全体の約60%、理化学業界が約30%の割合です。

また、日本国内においては少なくなりましたが、半導体、電子部品関係にも多く導入、採用されています。その理由は、半導体チップは溶接する際に湿気を含んでいると熱で水蒸気爆発が発生し、部品を破損したり、基盤を損傷する危険性があるため、チップの湿気を完全排除しながら保管しておく必要があるためです。

弊社の製品は、全国のカメラの量販店はもとよりインターネット通販各社を通じて流通展開されています。以前のようなメーカー～問屋～販売店といった販売ネットワークが崩れ、インターネット通販による販売が多くなっていますが、通販サイト間での顧客の奪い合い、価格競争、物流競争が激しいため利益を十分に得られないケースが発生しているというのが実状です。当社の経営においてもネット通販での販売は大変重要なことで、今後は大きな課題となっていきます。

— 創業当時の様子や経緯、経営者として印象に残っている出来事などがあれば、お聞かせください。

トーリ・ハン(株)を創業する以前、私は1983年まで理化学系の製品なども取り扱う汎用機の製造・販売をする汎用機械商社で創業時から営業、企画開発・経営などあらゆる業務に携わることができました。

3～4社のメーカーさんの製品の市場開拓、販売活動を展開する傍らで、自社ブランド商品として開発



できた製品は検査機関用の低温恒温恒湿槽、表面処理業界で大ヒットした油を使わない超高压ターボブロー、家庭用・業務用の配管式掃除システムであるセントラルクリーナー、蕎麦や活魚用クーラー、洗浄装置用クーラー用水冷却装置のユニットクーラー（小型クーラー）などがあります。

「防湿庫」を製品化した理由は、さまざまな分野で湿気で困っている人がたくさんいることからです。特にカメラ・レンズのカビ対策ではプロの方々が非常に困っているということを知り、日本中のカメラ・レンズをカビから守れないかと考え、防湿のニーズが高いことを知り、手がけはじめました。

特に湿気に悩まされていたのは、写真館、プロカメラマンなど写真関係のプロでした。レンズやフィルムは湿気によってカビが生えやすいのです。それまでは、皆さん湿気対策として乾燥剤を詰めたお茶缶にカメラ・レンズやフィルムを入れて保管していたそうです。

そして1983年（昭和58年）にトーリ・ハンを創業して間もない頃に、こうしたカメラマンのニーズに応えようと、通常の営業の傍ら、写真のプロ業界向けの展示会に出展しました。出展してみると大変好評で、たちまちプロのお客様同士の口コミもあり大評判になりました。大変感動したことは、展示会にいらしたお客さまの中には涙を流して喜んでいる方が何人もいたことでした。その方々は写真館を経営する先生方でした。お話を伺うと、大金をはたいて高額な輸入高級レンズを購入したが、ことごとくカビが生えてしまい、困り果てているというのです。カビが生えたレンズで撮っ

た写真は、商業写真としての価値がないそうです。

そこで防湿庫があれば、レンズにカビが発生するたびに払っていた高いメンテナンス料から解放され、本当に安心できると喜ばれました。「防湿庫はカメラマンにとって命の次に大事なレンズを守ってくれる装置だ!」と嬉しいお言葉までいただきました。仕事をしっていて、こんな感動はめったにありませんでした。また、写真関係の全国各地の展示会に参加して来ましたが、特に湿気の多い沖縄、シンガポールの展示会での反響がすごかったことを記憶しています。

—— 御社の社名の由来をお聞かせいただけますか。

当初はリビング関係の仕事になるだろうと命名しましたが、リビングでは主要な販路の写真業界、理化学業界、産機関係、美・博物館関係では異質な感がありました。創業当時はカタカナの社名が流行って来た頃でしたので、社名を短縮して頭文字をとりました。大手量販店からも、顧客からも短縮名で「トーリハン」と呼ばれていたため平成元年に現社名に変更しました。

—— これまで経営上もっとも困難だと感じになった出来事があれば、お聞かせいただけますか。

防湿庫を量販店に売り出したころ、カメラレンズ用の小型防湿庫の生産が間に合わず、在庫が足りなくなってしまう事態に陥り、お客さまに大変ご迷惑をお掛けしてしまったことがありました。

製造の遅れを取り戻すために販売活動を一切取り止め、営業の社員たちまでも長期間にわたり工場に出向

ウエットキャビ

シガー用 湿度 70%RH 以上



ギター用 湿度 50～60%RH



本社ショールーム

するような形で対応してもらわなければなりませんでした。その当時は景気が上向きだったこともあり、防湿ケースを作る板金プレス工場も多忙を極めていて、防湿庫の製造協力工場を増やすことは非常に難しかったのです。そのため製品の完成が追い付かず、量販店からもお叱りを受けましたし、営業の社員たちにも不慣れな業務で苦勞をかけてしまいました。こうした状況が落ち着くまでに3~4年かかったと思います。

他には、突然の協力工場の廃業、倒産などです。これには本当に困りました。商品の供給が出来なくなってしまい、他工場で再生産するまで時間を要しました。

— 御社の経営理念や経営方針などをお聞かせいただけますか。

「良い商品の開発と販売で、社会に貢献し、社業の発展を図り、社員のより良い生活向上を図ります」を経営目的としています。

社訓は5つの言葉があります。

- ①『創意工夫』
- ② 積極的にチャレンジしていこうという想いを込めて『挑戦』
- ③ 社員同士での人格、能力、努力、礼節、協調性を尊ぼうという想いを込めて『尊重』
- ④ 社会的な責任を果たすには、まず社内で自分がやるべき義務をしっかりと果たしていくことが大切だと考え『責任』
- ⑤ 一人一人が志を高く持ち、一流企業にも負けない優れた社員、人物になろうという想いから『優秀』
これらは創業時から変わらずに掲げている言葉です。

社訓以外にも『良い商品とは、社会に貢献するもの・国際的に通用するもの・自然環境に優しいもの・社業の発展に貢献するもの』といったモノづくりに携わる者としての心構えも掲げています。

— 御社の現在の課題、今後の事業目標などをお聞かせいただけますか。

グローバル化がその一つです。特に東南アジア諸国では湿気の問題は今後日本以上に深刻になるでしょ

う。そのためには、製販両方の拠点作りが必要ですし、人材問題もあります。

また、現状製品の改良、新製品の開発。そして、輸出だけではなく、輸入品の新製品開発も必要です。規模は限りなく小さくても、大手企業のやっていることと同様のことを、資金も人材も少ない弱小企業がどのようにやっていくかが大きな課題です。

— 原社長の座右の銘、愛読書、敬愛する歴史上の人物、心掛けているモットーなどがございましたら、お聞かせください。

特に座右の銘などはありません。最近目は疲れやすいので本を読む機会も減ってしまいました。歴史に名の遺す人物や偉人たちは敬愛しています。

徳川家康の『人の一生は重い荷物を背負い坂道を行くがごとし・・・』、湯川秀樹の『人生は思い直し、思い直し生きるもの』が好きな言葉です。

— 原社長の趣味や、休日を楽しんでいることがございましたら、お聞かせください。

趣味はゴルフ、下手な横好きと言うのでしょうか、いつまでも下手で困りますが、健康維持も兼ねて長く楽しみたいものです。

それから旅行です。旅行を兼ねて美術館・博物館を訪ねることです。旧所名跡を訪ね、桜前線や紅葉を追いかけて自分流の写真を撮りたいと思っています。

現在は家内と簡単な旅行をしたり、近隣の美術館・博物館の特別展に時間の許す限り行き、価値は分からなくても気に入ったものだけをつまみ見しています。

— 最後に当協会に対してご意見・ご要望などがありましたらお願いいたします。

現在の販売ルートである問屋さんをはじめ、販売店さんなどには大変お世話になっております。今後とも是非、ご販売のご協力などのお引き回しをいただきたく、よろしくお祈りいたします。

また、協会の機関誌・科学機器に広告を掲載させていただき予定です。併せてよろしくお祈りいたします。